

被爆70周年

被爆70周年
まちづくり先導事業



広島市安佐動物公園

asa zoo

安佐動物公園再整備基本計画

～人と動物にやさしく、魅力あるおもてなしの場の再生～



目次

はじめに	1 頁
活性化に向けた基本方針	2 頁
再整備基本計画の骨子	2 頁
1 整備内容	3 頁
2 整備スケジュール	6 頁
3 整備効果	8 頁

平成27年7月
広島市

はじめに

◆ 安佐動物公園の概要

安佐動物公園は、豊かな自然環境の中で国内外の貴重な野生動物と出会える場であり、昭和46年に開園し、今日に至るまで、映像や本からは得ることのできない学びや、家族連れで楽しめるレジャーの場として、多くの市民に親しまれてきた。

また、オオサンショウウオ・クロサイ・グラントシマウマ等の繁殖や生態研究により、絶滅危惧種の保護・増殖に大きな成果をあげており、種の保存に貢献する場としても全国的に高い評価を受けている。

さらに、年間約50万人が来園する集客施設であり、今後も、本市の貴重な観光資源としての役割が期待されている。

〔概要〕

- ・開園日 昭和46年(1971年)9月1日
- ・面積 使用面積 25.6ha
(敷地の全体面積 51.4ha)
- ・展示動物 約150種1600点
- ・入園料 大人510円(18歳以上65歳未満)
大人170円(65歳以上)
小人170円(高校生及び18歳未満)
※乳幼児、小・中学生は無料
- ・動物観察順路 約3.2km
- ・管理運営 指定管理者
(公益財団法人広島市みどり生きもの協会)

※平成27年度時点



◆ 園の有する社会的意義

安佐動物公園は、平和で豊かな社会の存続に貢献することを運営の理念としており、今後も、園がこれまでに果たしてきた社会的意義を継承していくことが必要である。

○ 市民の身近なレクリエーション・憩い（癒し）の場

動物との出会いや、野生動物の迫力・かわいらしさ・美しさに感動できるレクリエーションの場であり、都市部では体験できない豊かな自然と触れ合うことができる“癒し”の場

○ 学校教育と連携した環境学習の場

学校教育と連携した学習プログラムや、動物園の職員が学校等に出向いて講義を行う活動を通じ、学校の中の教育では体験できない、本物の動物による環境学習の場

○ 地域の自然に関する調査研究の場

周辺地域の自然環境や、オオサンショウウオの繁殖研究など、地域の自然を題材とした調査研究の場

○ 種の保存に貢献する場

希少な動物を生息域外で保全するため、飼育下での繁殖や他の動物園との積極的な動物交換を進めるなど、種の保存に貢献する場

○ 観光拠点としてのおもてなしの場

市外からの来園者が約4割を占めており、都市圏の観光産業を底上げし、けん引するポテンシャルを有する、観光拠点としてのおもてなしの場



◆ 現状と課題

○ 入園者数の伸び悩み

これまで本格的なリニューアルを行ってこなかったため、施設の老朽化が進んでいるとともに、傾斜のある敷地形状とユニバーサルデザインへの対応が十分に進んでいないことから、少子高齢社会を踏まえた幅広い層に受け入れられる新たな魅力の創出が十分でなく、近年は入園者数が伸び悩んでいる。

○ 広域的な集客力の向上

平成25年3月のチーターの新規導入、中国やまなみ街道（中国横断道尾道松江線）の開通による交通アクセスの向上、将来の下水道接続（平成29年度予定）に伴う新たな施設整備の可能性の拡大等、観光資源としての新たな魅力を創出し、集客力を向上させるための好条件が整いつつあり、これらを広域的な集客力の向上につなげる必要がある。

こうした現状と課題に対応するためには、老朽施設の計画的更新、インフラ・設備機能の補強、魅力向上を踏まえた園の活性化が必要である。

◆ 活性化に向けた基本方針

園が果たしてきた社会的意義を継承しながら、幅広い層に受け入れられる観光資源としての新たな魅力を創出し、広島の拠点性強化に資することを目指して被爆70周年まちづくり先導事業に位置付け、次の方針による園の活性化に取り組む。

「最小のコスト」で「最大の効果」を上げる取組による
人と動物にやさしく、魅力あるおもてなしの場の再生

活性化に向けた基本方針

「最小のコスト」で
「最大の効果」を
上げる取組

人と動物にやさしく、
魅力あるおもてなしの
場の再生

基本方針を踏まえた
取組の方向性

活性化に向けた4本の柱



4本の柱に
沿った
再整備計画

4本の柱に基づく取組

1 短期的な取組 : 活性化策

2 長期的な取組 : 再整備

再整備基本計画の骨子

1 整備内容 ～創出される新たな魅力～

◆ 動物たちとの新たな出会い (水生動物等の新規導入・展示強化)

将来の下水道接続にあわせ、水生動物等の新規導入や展示強化により、水辺や水中の動物たちの行動を間近で観察できる環境を創り出す。

優先整備メニュー

国内最大規模のアフリカ平原 (在: アフリカエリア) に、大型水生動物を新規導入



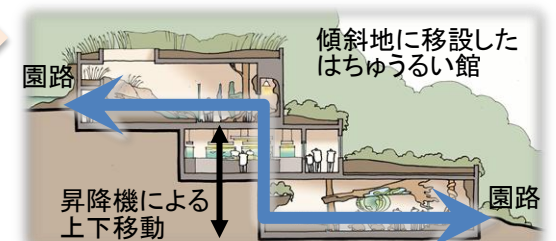
大型水生動物の導入イメージ

◆ 快適な空間での動物観察 (移動負担の軽減)

少子高齢社会を踏まえ、ゆるやかな勾配の園路や、傾斜地への昇降機付き展示施設の整備により、園内を移動する際の負担を軽減し、回遊性を向上させる。

優先整備メニュー

はちゅうるい館の移設とオオサンショウウオ館の新設に併せた、ショートカットルートの整備



施設を利用した移動負担軽減イメージ

◆ 世界の大陸を探访 (展示エリアの再編)

動物の生息地ごとの特色を強めた演出により、来園者が世界の大陸を探访しながら動物の生態を楽しむ空間に再編する。

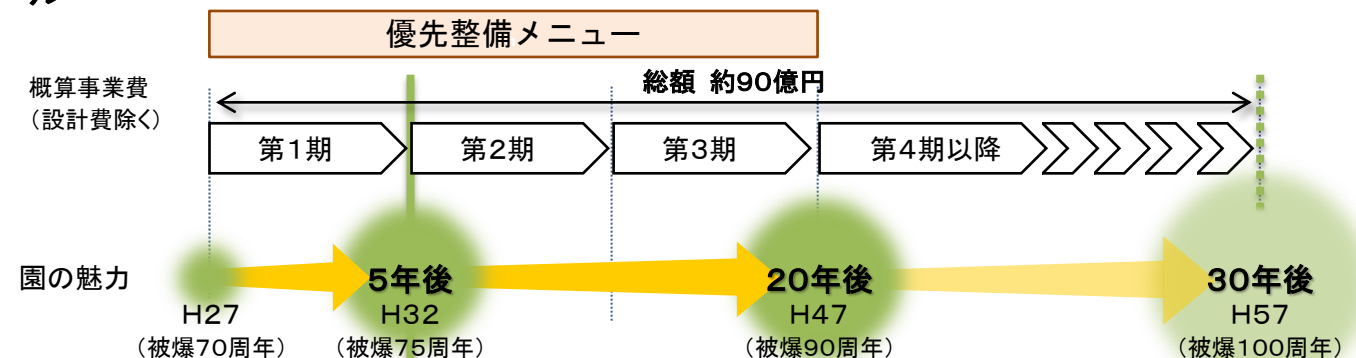
優先整備メニュー

新設の新世界エリアに、アマゾンの動物等を展示する南アメリカゾーンを整備



再編後のエリア構成イメージ

2 整備スケジュール



3 整備効果

年間入園者数
50万人
(平成26年度)

・再整備(第1期整備)
・活性化策

年間入園者数
60万人
(+10万人)

・段階的な再整備の推進
・時流に即した活性化策の実施

新たな魅力を創出

長期的目標
年間入園者数
65万人の実現
(+15万人)

1 整備内容 ～創出される新たな魅力～

◆ 動物たちとの新たな出会い （水生動物等の新規導入・展示強化）

○ 水辺空間や水生動物の展示不足

安佐動物公園は、ライオン・チーター等の肉食獣やキリン・シマウマ・ゾウ・クロサイ等の草食獣など、アフリカの動物の展示に力を入れており、その内容は国内有数の充実度を誇るとともに、園の大きな魅力となっている。

一方で、動物の展示を充実させるうえで欠かせない水辺空間の再現や水生動物の導入については、園内の汚水処理能力が不足していることから十分でなく、特にアフリカの動物展示をさらに充実させる上で長年の課題となっている。

○ 下水道接続を契機にした新たな魅力づくり

下水道接続（平成29年度予定）によって園内の汚水処理能力が向上し、動物の新規導入や展示施設の拡充とともに、本格的な水辺空間の演出が可能となることから、園の新たな魅力を創出する大きな契機となる。

新たな魅力創出のための取組

○ 本格的な水辺空間の導入

野生動物にとって重要な生活環境である水辺の導入により、動物たちの生き生きとした活動を引き出すとともに、その姿を間近で観察できるようにすることで、来園者に新たな魅力を提供する。

○ 大型水生動物の新規導入

アフリカの動物の展示に力を入れている安佐動物公園において、これまで飼育展示されていないアフリカの水生動物を新規導入すれば、園が誇るアフリカの動物展示をさらに充実させ、上記の課題に対応することができる。

そこで、アフリカの大型水生動物であるカバを導入し、安佐動物公園の新たなシンボルとし、園の魅力向上を図る。

カバは、水中や水辺での活動に意外性や迫力があり、大きな身体とユーモラスな外見でインパクトがあることから、大きな話題となって高い集客効果が期待できる。

○ その他の動物の展示強化

これまで園内でほとんど展示していない南北アメリカ大陸の動物（カピバラ、ナマケモノ、オオカミ、トナカイ等）の導入や、子どもたちに人気の高いペンギンの展示拡充などにより、園の魅力向上を図る。



カバ(王子動物園)



フンボルトペンギン
(安佐動物公園)



カピバラ
(那須どうぶつ王国)

優先整備メニュー

○ 園を代表するアフリカ平原の充実

国内最大規模の広大な放飼場の中を、キリン・シマウマ・ダチョウが群れて駆け巡るダイナミックな姿を観覧できる、園の代表的な人気施設であるアフリカ平原の充実を図る。



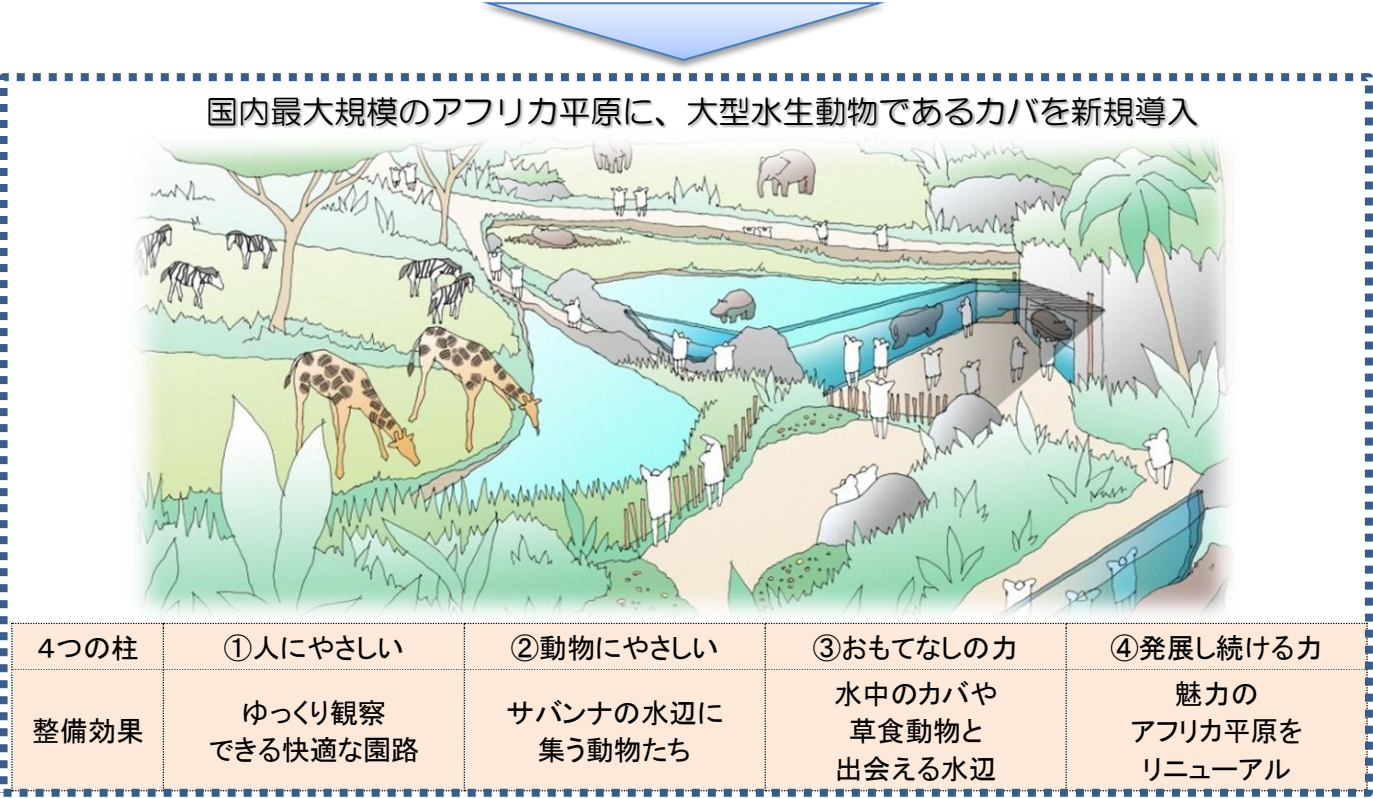
アフリカ平原



シマウマの群れ展示

○ アフリカ平原に水辺の魅力を導入

アフリカ平原に水辺空間を演出し、カバを導入することで、水飲みや泥浴びに興じるアフリカの水辺の動物たちの活動を、隣接するゆるやかな園路や視点場から、間近に観察することができるようになり、大きな魅力となる。



インパクトや魅力のある動物を導入し、集客力の向上を図る。

◆ 快適な空間での動物観察（移動負担の軽減）

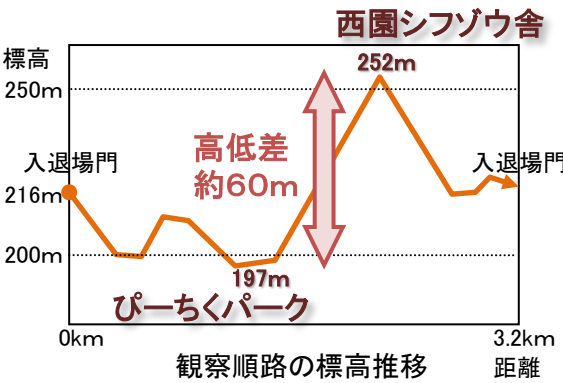
○ 急勾配

広大で高低差の大きい園内に展示施設が点在しており、園路勾配が市の福祉基準（5～8％）を超えて連続する区間がある。

少子高齢社会を踏まえ、園路を改修するかエレベーター等の昇降機を設置する必要がある。

○ 老朽化

昭和46年に開園して間もなく50年を迎える屋内展示施設の老朽化も進んでいることから、利用者の安全のためにも、施設の更新と耐震化が迫られている。



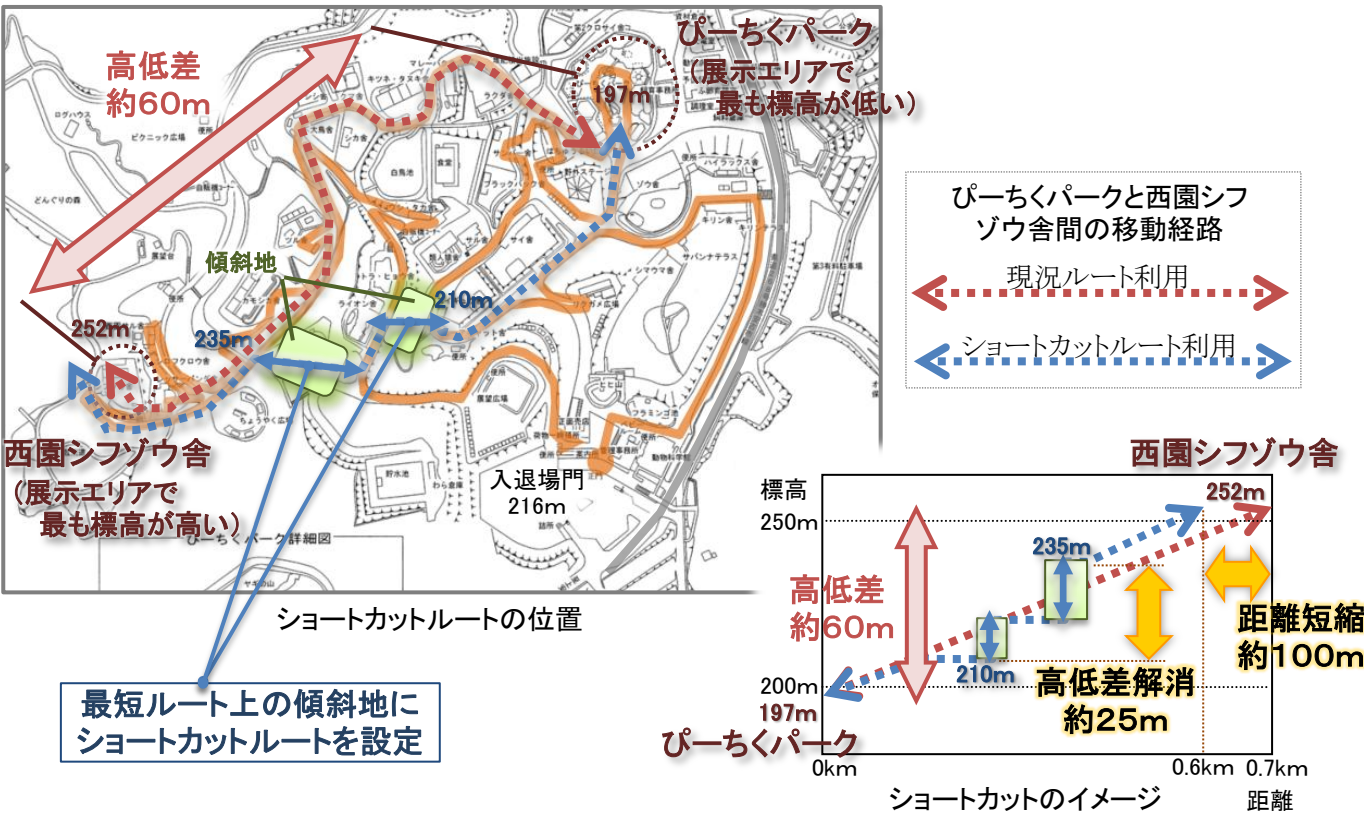
新たな魅力創出のための取組

○ 移動負担の軽減

展示施設を囲むゆるやかな園路や、観察順路の高低差をショートカットするルート（昇降施設の整備等）など、現在の地形を活かしながら部分的な整備を園内各所で進め、移動負担の少ない環境を整える。

○ 快適な観察環境の整備

園路の各所に、視点場、休憩所やベンチなどを整備し、様々な視点からゆっくりと動物を観察でき、かつ、ウォーキングなどの健康づくりにも活用できる環境を整える。



優先整備メニュー

○ 移動負担軽減と老朽施設更新の両立

高低差のある園路の間にある傾斜地に、更新が必要な屋内展示施設を移設及び新設し、施設内に昇降機等を整備することにより、園路間のショートカットルートとして活用する。

○ はちゅうい館の移設

園内の数少ない屋内展示施設であるが、施設の老朽化が進んでおり、耐震化や階段等のバリアフリー化もされていないことから、施設を移設し更新する。

○ オオサンショウウオ館の新設

安佐動物公園は、オオサンショウウオの飼育下繁殖に関する調査研究において、世界的にも高い評価を受けているが、展示施設ははちゅうい館内とピーちくパーク内にある小規模なものに限られている。

園の社会的な役割である種の保存に対する貢献と、他園にはない、独自の魅力を広くPRするため、オオサンショウウオ館を新設する。

はちゅうい館とオオサンショウウオ館を傾斜地に移設及び新設し、施設内に整備する昇降機等を利用したショートカットルートとして活用



4つの柱	①人にやさしい	②動物にやさしい	③おもてなしの力	④発展し続ける力
整備効果	高低差を気にせず歩き回れる園内	オオサンショウウオで学ぶ種の保存	はちゅうい館のリニューアル	種の保存への貢献

老朽施設の更新に併せ、移動負担の軽減とバリアフリー化を進め、安全で快適な観察環境を整える。

◆ 世界の大陸を探訪（展示エリアの再編）

○ エリア再編による新たな魅力づくり

動物園に訪れる来園者の多くは、動物との出会いを通じてその生息地を訪れる疑似体験を楽しむことを目的としている。ところが、現在の展示エリアは生息地ごとの集約が十分でなく、来園者の期待を満足させるものとなっていない。特に、アジアエリアと国際交流動物エリアは入退場門から遠く、かつ、展示施設が散在しているため、来園者の足が遠のいている。

新たな魅力創出のための取組

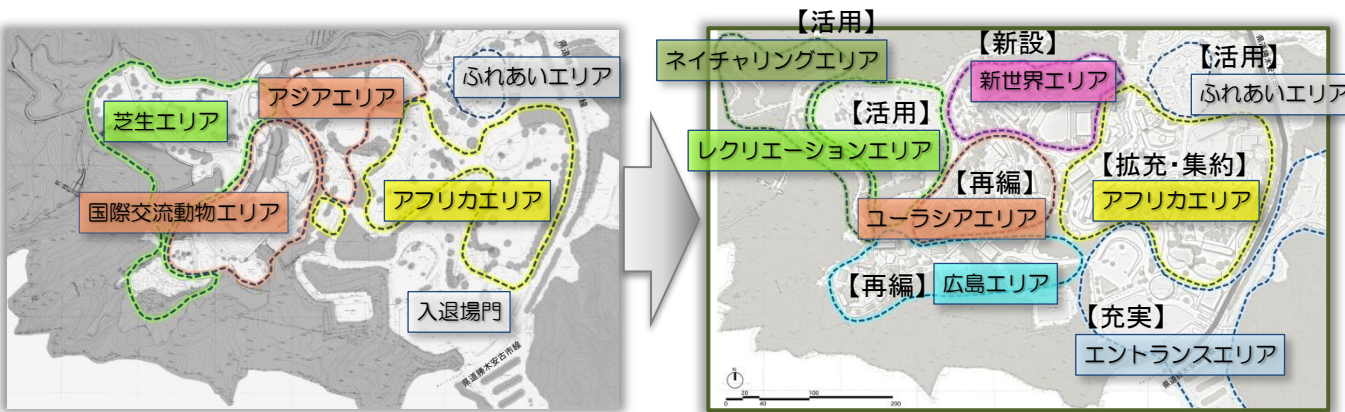
○ エリア再編と新たなエリアの創出

現在のエリアを生息地ごとのエリアに再編するとともに、新たな展示エリアを導入する。

〔エリア再編の考え方〕

エリア名 (現況)	再編の考え方		エリア名 (再編後)
アフリカ	拡充・集約	安佐動物園を代表する展示エリアとして拡充し、現在は離れた場所にあるライオンを集約して更に魅力を高める。	アフリカ
アジア	再編	既存のアジアエリア、国際交流動物エリアを再編してユーラシア大陸と広島県の展示エリアとし、生息地ごとの特色を強調してよりわかりやすい環境学習の場を提供する。	ユーラシア
国際交流動物			広島
—	新設	これまで園内でほとんど展示していないアメリカ大陸の多様な動物を展示するエリアとして、新たな魅力を創出する。	新世界
芝生	活用	既存の芝生広場を活用してフィールドアスレチックなどを導入し、レクリエーション機能を充実する。	レクリエーション
		芝生広場に隣接する山林を活用し、キツネの巣作りなど里山動物の自然観察機能を提供する。	ネイチャリング
入退場門	充実	チケット売場と売店の集約や駐車場の再整備等によりサービス機能を充実して、来園者の満足度を向上させる。	エントランス
ふれあい	活用	既存のピーチクパークを継続活用する。	ふれあい

その他、園内各所にある便所・売店等の便益施設や、動物飼育管理・供給処理等の管理施設は、再整備に併せた改修や既存施設の継続活用により、機能の充実を図る。



エリア図(現況)

エリア図(再編後)

優先整備メニュー

○ 新世界エリアの導入

新世界エリアにアメリカ大陸の動物を導入し、新たな魅力を創出する。

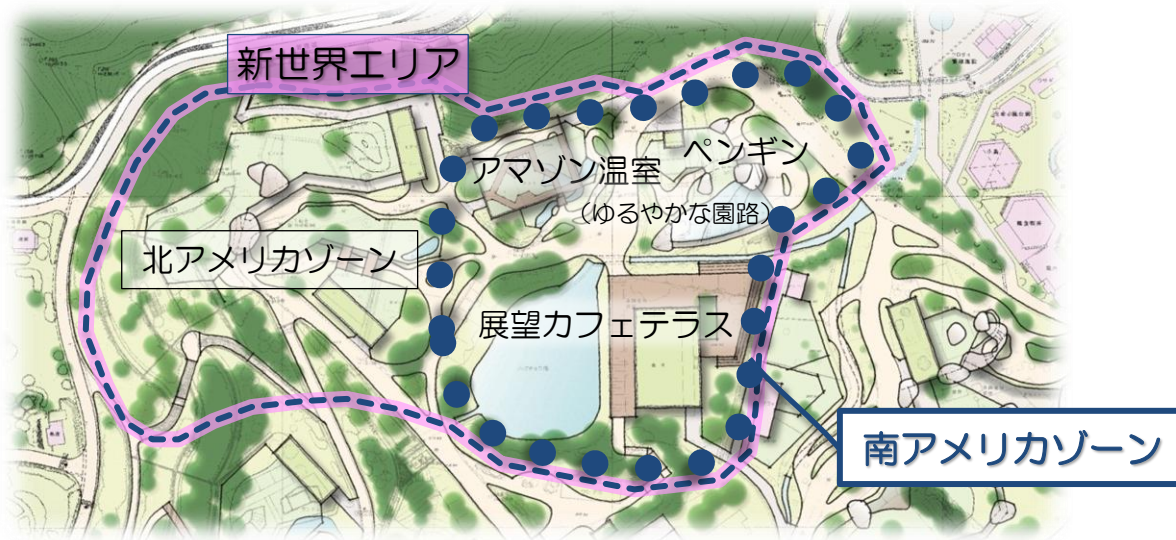
○ 南アメリカゾーンと快適な観察環境の整備

新世界エリアのうち南アメリカゾーンは、アマゾンを再現した温室でジャングルに生息する動物の活動を間近に観察できるようにするとともに、子どもたちに人気のあるフンボルトペンギンをピーチクパークから移転・拡充し、高齢者や子どもたちがゆるやかな園路でゆっくりと観察できる環境を整える。

○ 展望カフェテラスによるサービス向上

既存の食堂バクバクは展望カフェテラスとして拡充し、団体予約や雨天時のお弁当場所提供などの来園者サービスを充実して集客力の向上を図る。

新世界エリアの南アメリカゾーンにおいて、ジャングルの動物やペンギンなどをアマゾン温室や展望カフェテラスでゆっくりと観察できる環境を整備



4つの柱	①人にやさしい	②動物にやさしい	③おもてなしの力	④発展し続ける力
整備効果	ゆっくり観察できる快適な園路	ジャングルの中で活動する動物たち	アマゾン温室やペンギンと出会える展望カフェテラス	人気のペンギン展示を拡大・充実

新たなエリアと動物の導入や、サービス機能を充実させることにより、更なる魅力を創出し、広域的な集客力の向上を図る。

2 整備スケジュール

◆事業の展開手順

○第1期整備

わかりやすくインパクトのある整備を行い、再整備の成果をいち早く市民に示して事業に対する理解と協力を得る。

○第2期整備

老朽施設の更新やバリアフリー化等の緊急性の高い整備を行い、入園者の安全性・快適性の改善を図るとともに、園内の回遊性が向上することにより、第1期整備の集客効果の持続が期待できる。

○第3期整備

第2期整備によって園内の回遊性が向上することから、展示施設の再配置によって、新たなエリアを導入し、更なる魅力の創出を図る。

◆事業展開の考え方

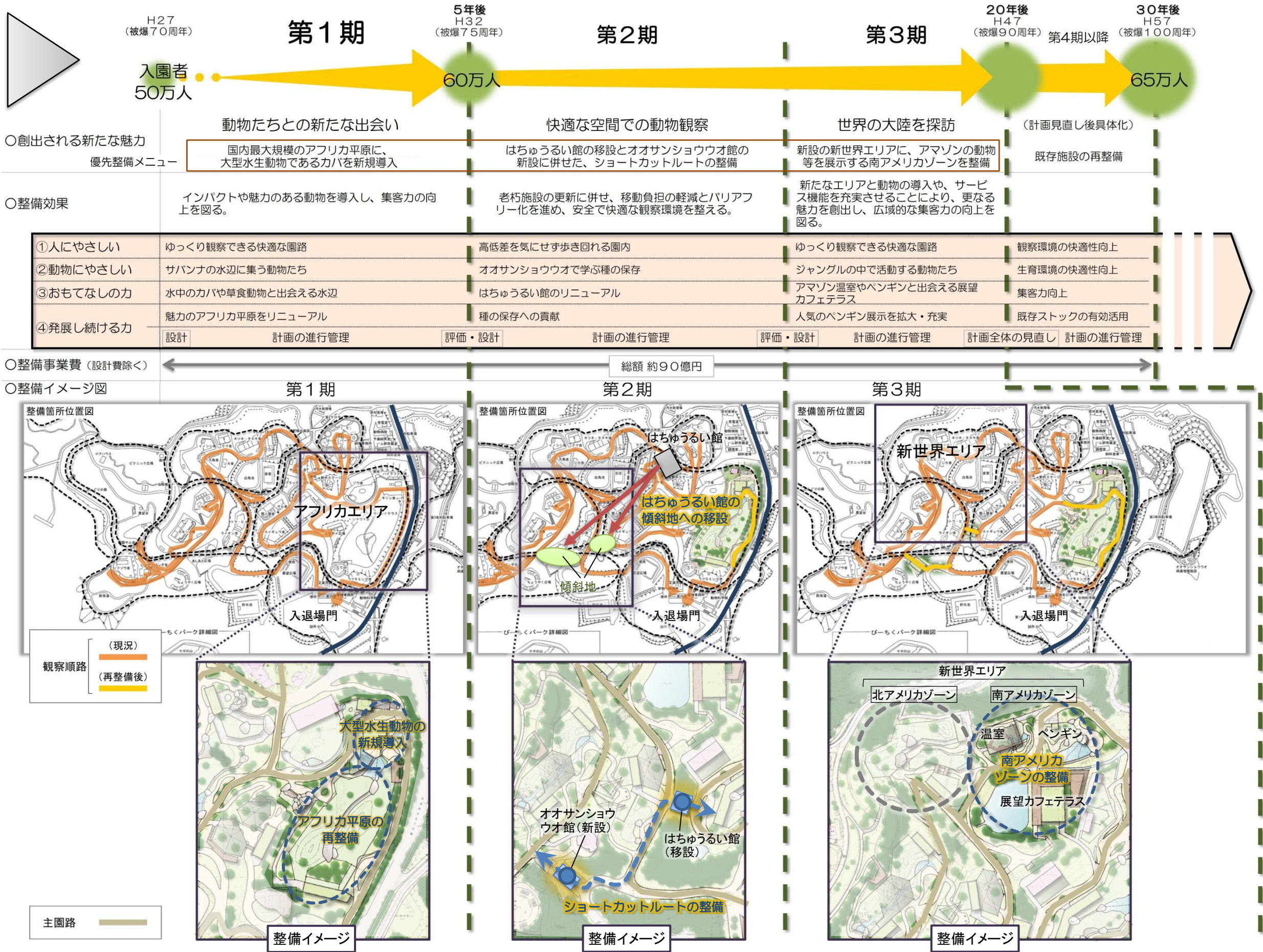
○整備効果の高い優先整備メニューから段階的に実施し、集客効果の持続を図る。

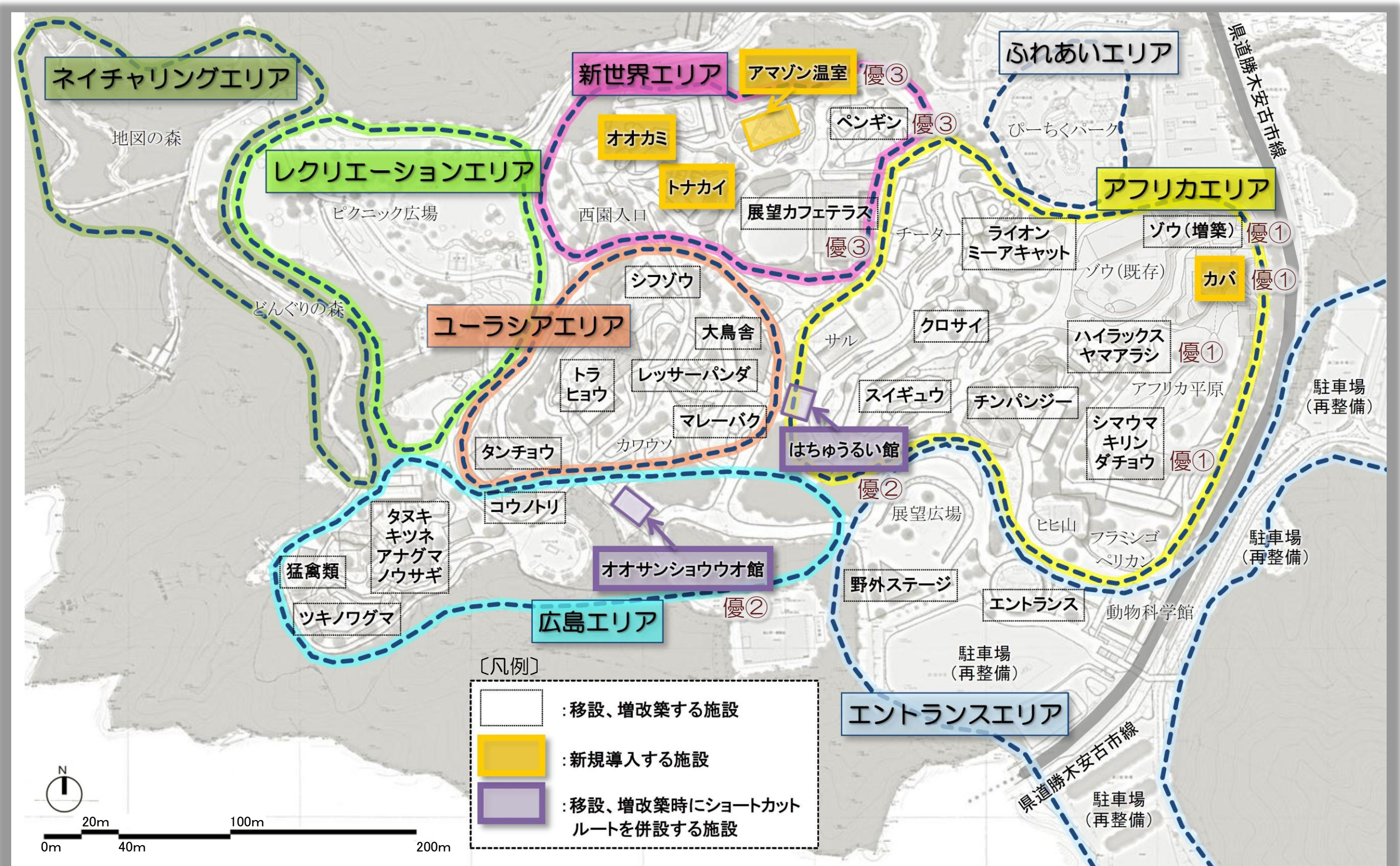
○社会経済情勢の変化に適應できるよう、5年程度の整備期間を設定し、各期の整備効果を評価して次期の整備内容に反映させる。

○優先整備メニュー完成後は、計画全体の見直しを行う。

◆投資ベース

既存建物を建て替えた場合、30年間で50億円程度の費用がかかると想定され、新たな魅力を創出するための投資を加味したペースで計画する。





※①②③：第〇期整備

◆ 再整備に併せた取組

○ 種の保存に貢献するための環境づくり

動物が生き生きと生活し、活発な繁殖活動を引き出せるような環境づくりに取り組むこととし、これまで繁殖に実績のあるオオサンショウウオ、クロサイ、グラントシマウマをはじめ、世界中の動物園で3頭しか飼育が確認されていない希少なマルミミゾウなど、園で現在飼育されている動物について、再整備に併せた保護・増殖に必要な施設の充実を図る。



マルミミゾウの「メイ」

○ 再整備による屋根付き視点場等の整備

観察順路沿いに屋根付きの視点場や休憩所を整備することにより日差しや雨・雪を遮り、来園者の快適性を高める。

○ 活性化策による短期的な取組

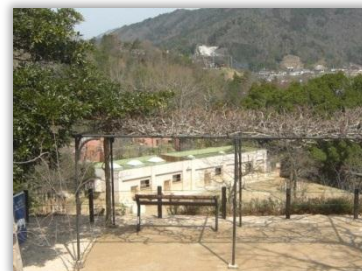
集客圏域の人口減少や再整備工事の影響による来園者減に対応するため、最小の投資で具体的な効果が表れる短期的な活性化策を実施することにより、集客力の持続を図る。

(活性化策の取組例1)

園内を楽しみながら移動できるように、園舎壁画の作成やビューポイントの整備などの取組を進めて移動空間の魅力を向上させるとともに、電動カートの運行により移動負担の軽減を図る。



キリン舎壁画



クロサイビューポイント



電動カート「ラクラクくん」の運行

(活性化策の取組例2)

園に至るまでにわくわく感が持てるような演出について、広島市景観計画と連携した取組を進め、沿道景観と来園者の期待感を向上させる。



沿道演出の事例(よこはま動物園ズーラシア)

○ 集客に向けた取組

指定管理者と協力しながら、観光拠点にふさわしい集客力の向上に向けた取組を行う。

(取組例)

- ・ ナイトサファリ(夏季)の実施
- ・ イルミネーション(冬季)の実施
- ・ 新たなレストランメニューの提供
- ・ 旅行代理店とタイアップしたツアーの誘致 等



ナイトサファリ

3 整備効果

再整備を進めて新たな魅力を創出することで、園の有する社会的意義が高まるとともに、観光拠点としての魅力が向上し、広域的な集客の実現が期待できる。

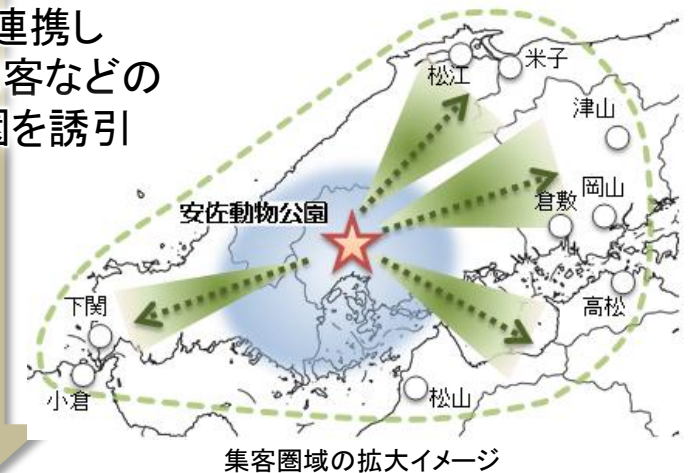
来園者の属性

- ・ 来園者の6割が30・40代
→50代以上(1割)を誘引
- ・ 来園者の6割が市内在住
→市外の観光客などを誘引
- ・ 平日の来園者数は休日の4分の1
→平日に行動しやすい高齢者や団体
旅行客などを誘引
(H24 アンケート・実績)

観光需要の動向

- ・ 増加傾向にある観光客数
(年100万人増: H16~H25 広島県)
→観光需要から誘引
- ・ 観光客のうち50代以上が4割
(H23 広島県)
→50代以上の観光需要から誘引

平和記念公園や宮島等の
集客地と連携し
高齢者・観光客などの
平日の来園を誘引



集客圏域の拡大イメージ

広域的な集客の実現

第1期整備が完成する平成32年度(被爆75周年)に、年間入園者数10万人増の60万人を、長期的には、15万人増の65万人を実現

平和で豊かな社会の存続に貢献することを基本理念に
これまで果たしてきた社会的意義を継承しながら
幅広い層に受け入れられる観光資源として
広島都市圏域の経済活性化を目指す

人と動物にやさしく、魅力あるおもてなしの場として
世界に誇れる「まち」広島の実現の一翼を担う。